

## 勝山市総合行政審議会（第14期第4回） 結果概要

開催日時：平成28年7月20日（水）

午後7時～午後9時

開催場所：勝山市役所3階 第1会議室  
第2会議室  
第3会議室

出席者等：出席委員14名

説明者：建設部建設課・都市政策課、  
教育部教育総務課・学校教育課  
・史蹟整備課・生涯学習課、  
スポーツ局、  
市民生活部環境政策課・税務課  
・市民課、消防署

事務局 総務部未来創造課

### 議 題

平成27年度勝山市政策基本目標管理外部評価について（グループごとの審議）

## 【Aグループ】 観光・まちづくり分野

### 第1章 すべての市民の力を合わせた広く開かれたまちづくり

#### 1.2. 効率的、効果的な行財政の運営

##### 1.2.3. 公平・適正な税政運営、適正な公共料金の設定 について

●委員

・項目の評価について異議はないか。

●委員

・異議なし。

##### 1.2.5. 行政組織の効率的運用 について

●委員

・窓口業務の時間延長について、土日の開庁等の拡大は考えていないのか。

○説明者

- ・現在、毎週火曜日に夜7時までの窓口延長を行っている。戸籍関係の届出は宿直室で24時間受け付けており、郵送による請求も受け付けている。住民票に関しては電話で予約を受け付け、その日のうちに宿直室に取りに来られる場合は対応している。24時間窓口を開設することは経費および人員の問題から対応が難しい。ただし、将来的にはマイナンバーカードの普及に合わせ、コンビニでの交付も検討していく。

●委員

- ・予約すれば宿直室で住民票が受け取れることなどを市民に周知しているか。

○説明者

- ・市ホームページでご案内している。住民票は週に1・2件は予約がある。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

#### 126. 広域行政の推進 について

●委員

- ・奥越圏域全体のゴミ排出量削減について、総合評価に「ゴミ総量は減少しているが、一人あたりのごみ排出量が微増している」とあるが、この原因は把握しているのか。

○説明者

- ・ゴミステーションからのゴミ回収と直接ビュークリーンへ持ち込まれるゴミ、事業者が持ち込むゴミの3パターンがある。勝山市の場合は持ち込みゴミが増えている。排出量は県内9市では一番少ないが、現在は野焼きが禁止されたこともあり、草木の持ち込みが増えていることが原因の一つだと捉えている。また、観光客の増加によるゴミの増加も考えられ、ゴミ減量に向けた課題の一つだと認識している。

●委員

- ・項目に新しいゴミの分別早見表の発行に向けた準備とあるが、これがゴミの減量につながるのか。

○説明者

- ・現在の分別早見表は作成から7年ほどが経過しており、内容の見直しが必要となっている。小型家電リサイクル法等の表記が抜けている。まだまだ分別できるゴミが燃やせるゴミとなっているが、分別を徹底することで資源ゴミとしてリサイクルされ、結果として焼却分が減るということになる。分別の徹底をPRするために分別早見表が必要だと考えている。

●委員

- ・勝山・永平寺衛生管理組合に関することについて、施設維持はこれまで短期計画で実施してきたため、長期計画を作成するという事か。

○説明者

- ・今後、施設の老朽化に対応し、処理を継続していくために作成する新たな長期計画というこ

とである。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 第2章 誰もが安心して暮らせる人にやさしいすこやかなまちづくり

### 25. 安定した医療、保険、年金制度の実現

#### 252. 安定した国民健康保険制度の運営 について

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

#### 253. 国民年金窓口サービスの充実 について

●委員

- ・日本年金機構年金事務所との連携について、自分がもらうことのできる年金額は、市役所でわかるのか。

○説明者

- ・国民年金のみの対応になるが、支払った月数がわかればある程度の金額は示すことができる。厚生年金については、月に1回年金相談日があるので、そちらで答えていただける。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 26. 安全安心に暮らせるまちの実現

#### 264. 交通安全対策の推進 について

●委員

- ・高齢者運転免許証自主返納支援事業について、免許証を返納した場合のメリットは何か。

○説明者

- ・市内コミュニティバスで無期限に利用できる無料券を発行している。またタクシー業界の対

応として、県下統一でタクシー料金が2割引きになる証明書を発行している。

●委員

- ・返納者は増えているのか。

○説明者

- ・増加傾向にある。家族の勧めにより、一緒に返却に来られるケースが多い。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

266. 消費者保護の推進 について

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 第4章 美しい環境や景観の中で便利で快適に暮らせるまちづくり

### 4.2. 人にやさしい交通体系の確立

421. 利用しやすいバス体系の整備と利用促進 について

●委員

- ・施策指標 市内バス年間利用者数について、市内バス年間利用者数の数値目標が年々減っているがこの理由を教えてほしい。また、北陸新幹線開通により観光客が増えているとのことだが、この対応等は考えているのか。

○説明者

- ・目標値が下がっていることについては、人口の3倍の数値を設定しており、勝山市の推計人口が減少していることに連動して下がる想定である。

バスの利用者数としては、生活路線の利用者数は減少しているが、観光路線では増えている。また、えちぜん鉄道（以下「えち鉄」）で勝山市へ来られて、恐竜博物館へ行くのにバスを利用する方も増えている。昨年は勝山駅から恐竜博物館へ行くバスの時刻が、えち鉄のダイヤと接続しない時間帯があったことや、25人乗りのバスではピーク時に乗り残しが発生したケースがあったことから、増車することで全ての電車のダイヤに接続対応した。今年度からは75人乗りの大型バスを配備して電車と接続したため、GW期間等での乗り残しは発生していない。

平泉寺方面のバス路線については利用者が減少している。これは旅行会社によるバスツアー

が増えており、直接平泉寺へ行くケースが多くなっているためであり、この路線は土日祝日のみ小型バスでの対応を行なっている。今後、新幹線を利用して、えち鉄経由で平泉寺方面へ来られる方が増えれば対応を検討していく。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

#### 4 2 2. 乗りやすい鉄道の整備と利用促進 について

●委員

- ・この項目を通して、特に効果があったものは何か。

○説明者

- ・えちぜん鉄道は平成15年から第3セクター方式で事業を再開した。平成25年に沿線市町で生活基盤の社会資本として、①道路と同じように整備していくこと ②沿線市町で支援していくことを確認した。現在でも勝山市が一番多くの負担金を支払っている。各項目にある事業を推進してきたことで、勝山駅の年間利用者数は増加していると考えている。

●委員

- ・この項目の数値目標は毎年増加している。これは、えちぜん鉄道自身が設定した目標値か。

○説明者

- ・えち鉄では平成24年度から平成33年度までの利用客累計333万人を目標としていた。この目標に合わせて勝山駅の利用客数も増加する設定とした。現状は平成27年度で345万人に達している。観光客の増加が要因であり、特に平成26・27年度は勝山駅の利用客数も増加している。これに対し、通勤通学で日常的に利用する人数はほぼ横ばいとなっている。

●委員

- ・観光地周遊バス（恐竜バス）の効果的な活用について、GWやお盆等に合わせ市内観光バスの増便とあるが、これは電車とリンクしているのか。

○説明者

- ・観光客の増加に対応して増便し、全ての電車と接続して運行した。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 4.3. 環境や景観に配慮したまちの実現

#### 4.3.1. 循環型社会の構築 について

##### ●委員

- ・集団回収の推進について、補助要綱を改正したとのことだが、その内容はどのようなものか。

##### ○説明者

- ・以前は曜日に関係なく集団回収を行っていた団体に対し、キロ当たり5円、回収業者にキロ2円の補助をしていた。このときの補助金の流れは、回収業者にキロ7円を支払い、回収業者から団体へキロ5円分が渡されていた。これは補助金の流れとしては不適切であったことから、団体に直接補助金を渡すため、団体から市へ直接申請をしてもらうよう変更した。補助金の流れを明確にするため、そして業者が不正をしないよう安全策としての2点が主な改正理由である。また、土日祝日に行なわれた集団回収のみを対象にするよう改正を行なっている。これは市内各地区のゴミステーションにおいて、月に1回平日に古紙の日を設けて回収を行っているが、複数の地区でこの古紙回収を地区の集団回収分として申請し、補助金を受け取っていたケースがあり、他の地区と比較すると不公平な面があったため、土日祝日に団体が行う集団回収のみを補助対象とした。

##### ●委員

- ・ひとり一日当たりのゴミ排出量は増加している。今後の具体的な対策について教えてほしい。

##### ○説明者

- ・勝山市のゴミの減量化は県内トップクラスである。かなり進んでいるが、一方で野焼きの禁止による草木の搬出が増えている。また、最近の環境保全活動の流れの中で、地域住民による公園や道路の草取り、外来種の駆除活動が盛んになってきていることから、新たなゴミの排出量も増えてきている。そのため今後ゴミの排出量を減らすには、各家庭から出るごみの分別を徹底することが有効であることを周知していく。また、リサイクルの徹底についても周知していく必要がある。

##### ●委員

- ・食用廃油の回収を行っているとのことだが、その内容は。また、フリーマーケットは何かリサイクルに成果があるのか。

##### ○説明者

- ・勝山市の場合は、フリーマーケットではなく、各地区の文化祭や保育園の夕涼み会などでバザーが行なわれ、家庭内の不要品を交換・売買することでリサイクル活動になっている。食用廃油のリサイクルは大日園で行なわれており、市内食品加工業者等から回収した廃油をろ過することにより燃料用の油へリサイクルしている。勝山市役所内でも食用廃油を回収して大日園に協力している。

##### ●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

##### ●委員

- ・異議なし。

#### 4 3 2. 低炭素社会の構築 について

##### ●委員

- ・ I S O 1 4 0 0 1 自己適合宣言の維持及び推進について I S O 事務の改善とあるが、具体的な内容をお伺いしたい。

##### ○説明者

- ・ 以前は業者に委託して外部評価を実施していたが、現在は市役所各課で担当を決め、内部評価を実施する自己認証の体制になっている。内部評価結果を各課へフィードバックし、改善に努めてもらうこととしている。事務改善内容としては、各課で定めている環境目標を理解し、その実現に取り組んでいるかを評価している。例としては、年間の紙の利用量が多くなっていれば、これに対して事務内容の見直し・改善させることを実施している。

##### ●委員

- ・ 再生可能エネルギーの調査、研究について、勝山市では雪室実験で何を商品化しようとしているのか教えてほしい。

##### ○説明者

- ・ 勝山市では平成 2 6 年から平成 2 7 年にかけての冬期間に、J A の使用していない冷凍倉庫をお借りして雪を搬入し、雪室実験を行った。今年度で 2 シーズン目に入っている。雪室に色々な食品を貯蔵し、県の食品加工研究所の協力を得ながら実験を行なっている。現在までの成果としては、まずソバがあげられる。昨年雪室で貯蔵したソバを最近取り出し、ソバ粉に加工し、食味などを調べた結果、収穫から 3 ・ 4 ヶ月経過後にも関わらず、ほとんど新ソバと変わらないとの評価を受けた。このソバを使用し、雪室ソバとして現在市内の蕎麦屋さんで提供していただいている。一番商品化に近いものとして考えている。後は人参なども糖度が上がることが証明されている。また、大根は冬に貯蔵したものが 6 月になっても新鮮で瑞々しい状態を保っており、おろしそば用に使ってもらっている。北海道や新潟など先進地では色々なものが商品化されている。それを参考に勝山市ならではの商品化を目指して、今後も実証実験を進めていく。

##### ●委員

- ・ 雪室関連商品は通常のものよりコストがかかる分、料金が高めに設定されていることが多い。勝山の雪室ソバも値段を高めに設定しているのか。

##### ○説明者

- ・ ソバ組合に対し通常より 5 0 円程度高めに設定するよう提案したが、今年については通常の金額で提供している。本来は雪室の維持管理経費がかかっているため、高めに設定する必要がある。新潟では雪室ソバの専門店があり、1 ～ 2 割増しで提供されていた。やはりソバはブランド化できると考えている。6 次産業化を目指し、その他の食品も検討していきたい。設備等の準備はできあがりつつあるので、後は生産者のやる気が重要である。

##### ●委員

- ・ 雪室関連商品は付加価値がわかりにくい場合がある。ソバ等は違いがわかるものか。

○説明者

- ・新潟や北海道では色々なものが商品化され、会社まで設立されているが、勝山市の取組みがどこまで近づけるのかは未知数である。この雪室実験はもともと雪を利用し、電気を使用しない新たなエネルギーとして活用することが目的であり、そのイメージのプラス効果を期待している。また、スローライフに共感する人達にアピールできるとも考えている。

●委員

- ・最近のインバウンドで来られる東南アジアの富裕層の人達は、価値があると認めれば少々高くても大量に購入していく。

○説明者

- ・勝山市の米については、寒暖差の大きさや水の良さから福井県内でも良質で高く売れている。雪室の価値を付加すればさらに高く売れる。来年は生産者がお米の貯蔵をしてくださるので期待している。ブランド化により市内経済の活性化にもつながる。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

#### 4 3 3. 環境保全・保護、美化活動の推進 について

●委員

- ・環境活動に優れた団体等の表彰について、学校も受けているが、具体的にどのような活動に対して表彰されたのか。

○説明者

- ・勝山市では環境教育を中心としたE S D教育が盛んで、全ての小中学校でなんらかの環境活動が行なわれている。保全活動がメインであり、赤とんぼの保全活動や外来種駆除、バイクモ保全のための河川清掃、池ヶ原湿原の希少植物保全活動等が行われている。

●委員

- ・勝山市の不法投棄の実態はどのようなものか。

○説明者

- ・平成21・22年度に国の制度を受けて不法投棄パトロールの人員を雇い、河川や崖の下の不法投棄物を徹底的に回収・撤去した。ゴミがゴミを呼ぶという考えから、徹底的に回収することでゴミを捨てにくい環境作りと再犯防止につなげ、成果を上げることができた。

●委員

- ・市内全域を四季折々の花で埋める活動について、恐竜博物館へ向かう道路沿いを花いっぱいにする計画等はないのか。

○説明者

- ・この事業は、勝山市をきれいにする活動の賛同団体が行う花壇づくり活動に対し、補助を行うものである。恐竜エキスポ開催の時にはプランタを並べたが、実際は水やりが大変で継続が非常に難しかった。同じことをもう一度やるのは非常に厳しい。まして各種団体へ強制も



できない。平成30年の国体に向けては県全体として花いっぱい運動は展開する予定である。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 【Bグループ】 農林業・建設分野

### 第1章 すべての市民の力を合わせた広く開かれたまちづくり

#### 1.1. 市民が主体となったまちづくり

##### 1.1.1. 市民の市政への参画推進 について

- 委員
  - ・項目の評価について異議はないか。
- 委員
  - ・異議なし。

#### 1.3. 多様な交流活動の推進

##### 1.3.5. Uターン・Iターンの推進 について

- 委員
  - ・定住化促進事業の推進について、定住促進住宅の空き部屋数が目立っている。壁や畳等のリフォームについては、入居する前に説明を受けるそうだが、それにしても定住化を「促進」するような状況ではなかったと聞く。事前説明の際にリフォーム後のイメージを伝える等の対応を工夫できないか。
- 説明者
  - ・定住促進住宅は市営住宅とは違い、料金や同居者の制約がなく入居しやすい条件となっており、今年度は申込みが7、8件あった。部屋のリフォームについては入居希望があってから行っており、入居希望者には口頭でお伝えしている。特に高層階の部屋は階段がないこともあり、人気がなく空き状態が何年も続いている。事前リフォームをすることもできるが、メンテナンスにかかる費用面から、入居者とのマッチング後に実施することになっている。
- 委員
  - ・事前にリフォームをしなくても、説明の際にリフォーム後の写真を提示すると、印象が変わるのでないかと思う。
- 説明者
  - ・希望者に気持ち良く入居いただけるよう、今後も対応方法を工夫していきたい。
- 委員
  - ・項目の評価について異議はないか。
- 委員
  - ・異議なし。

## 第2章 誰もが安心して暮らせる人にやさしいすこやかなまちづくり

### 2.6. 安全安心に暮らせるまちの実現

#### 2.6.1. 消防体制の充実 について

##### ●委員

- ・施策指標 無火災連続日数について、未達成となっているが詳細をお伺いしたい。

##### ○説明者

- ・無火災連続日数については200日以上を目標にしているが、現在の基準だと規模の小さな車両火災や野焼き等も火災の範囲に入っており、達成できる見込みがない。そこで、総合計画の改定に伴って目標基準の見直しを行い、建物火災に限定しようと考えている。

##### ●委員

- ・建物火災に限らず、野焼きや車両火災についても山林火災の一因になり得るため、軽視はできないと思う。目標に含める範囲をもう一度検討いただきたい。

##### ○説明者

- ・しっかりと検討して指標を決めていきたい。

##### ●委員

- ・そもそも施策指標を無火災連続日数にする意味は何か。火災件数等にして数値を減少させた方が分かりやすいのではないか。

##### ○説明者

- ・本数値は人口や家屋数の影響を受けにくい指標であるため、この設定にしている。また、過去に200日間無火災を記録したことがあり、目標値にしたという経緯がある。

##### ●委員

- ・消防団の立場から申し上げると「連続」というのは日々の積み重ねの繰り返しという意味があり、無火災の連続日数は団員や隊員の励みや危機感にもつながることから、無火災連続日数を目標とする意味はある。

##### ●委員

- ・無火災連続日数の指標がモチベーションを上げることになることがよく分かった。しかし、市民が見たときには意味が伝わりにくい。意味合いがわかればより防火意識のPRにつながると思う。

##### ○説明者

- ・火災の発生率についてのデータは毎年把握している。よく検討して指標を見直したい。

##### ●委員

- ・消防団の団員の確保について、団員数は課題となっているのか。

##### ○説明者

- ・その通りである。特に若い人が非協力的だという声を聞く。社会情勢もあるが、団員の方がサラリーマン化しており、平日の活動が負担になっているようだ。若い世代に対しては、山口茜選手を起用した団員募集や成人式での呼びかけ等の工夫をしているが、あまり結びつい

ていないのが現状である。今後は消防団員の条件や装備を整備していくことを考えている。  
また、地域性も重要であり、自分達の地域は自分達で守るんだという地域愛の醸成が大切だと考える。

●委員

・その割には減少率が低く、評価できる。

●委員

・項目の評価について異議はないか。

●委員

・異議なし。

## 262. 救急体制の充実 について

●委員

・救急救命士の計画的な養成・増強について救急救命士は不足しているのか。

○説明者

・現在救急車は3台で勤務は3部制であるため、救急救命士は9名必要である。9名体制を維持できるよう、平成30年まで1人ずつ養成していく予定である。

●委員

・1名養成するためにかかる経費と期間はどれくらいか。

○説明者

・研修期間は7ヶ月間であり、経費は約300万円かかる。また、研修後には県立病院において1か月の実地研修があり、実績を積み重ねなければならない。さらに資格取得後にも2年に1回、10日以上研修が必要である。

●委員

・勝山市では2回消防演習を実施しているが、大野市では春と秋の練習の際にガスや電気関係機関と連携して総合的に訓練していると聞く。勝山市のガス協会でも連携の練習ができると良いと話している。

○説明者

・市の総合防災訓練において、ガス協会等と連携確認できるよう担当課と話していきたい。

●委員

・ガス協会としても一緒にできると良いと思う。万が一災害が発生した際に備え、広い連携ができるよう体制を整えていただきたい。

○説明者

・ご意見を承り、お話をさせていただく。

●委員

・項目の評価について異議はないか。

●委員

・異議なし。

## 第4章 美しい環境や景観の中で便利で快適に暮らせるまちづくり

### 4.1. 効率的で人にやさしい都市基盤の実現

#### 4.1.1. まとまりのある都市構成と土地利用の推進 について

○説明者

- ・平成27年度の取組結果について、一部訂正をお願いしたい。  
「県内8市町が共同で策定作業を行っている」 → 削除

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

#### 4.1.2. 道路網の整備 について

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

#### 4.1.3. 公園緑地の整備 について

●委員

- ・施策指標 公園利用における市民満足度について、市民意識調査はどのように行ったのか。

○説明者

- ・市民意識調査については、第5次総合計画の進捗状況を調査することを目的に、市民2,000名を男女・年齢別に抽出し、全て「はい」「いいえ」の二択で回答できるような内容で実施した。

●委員

- ・今後の方針に記載のある、「遊具の老朽化や魅力不足」などの文言は、アンケートの結果からきているのか。

○説明者

- ・今回実施したアンケートでは、理由等までは調査していない。

●委員

- ・利用満足度については、遊具の老朽化や魅力不足だけで判断するのは危険だと思う。福井市では、トラックがあるだけで遊具がなくても利用者の多い公園もある。満足度の低い要因について、もう少し調査をした方が良いと思う。

○説明者

- ・各区からの要望では、公園遊具の老朽化についてご意見をいただいております。市としては国の補助事業を受けながら遊具の修繕を進めていく予定である。

●委員

- ・遊具は一度整備するとメンテナンスが必要になる。あまり遊具にこだわらなくてもよいのではないか。

○説明者

- ・しっかりと検討していきたい。

●委員

- ・公園の整備について、中央公園の整備計画はないのか。市街地にあることから将来的に魅力のある公園となる可能性があると思う。また、整備の対象となる優先順位はあるのか。

○説明者

- ・中央公園のリニューアルについては検討されている。ただ、全面改修をすると億単位の費用がかかる。部分的な改修については、利用者や担当課の点検により進めていく。改修については危険度のランク付けにより優先して修繕している。

●委員

- ・現在子どもが全く遊んでいない公園については、どのように整備していくのか。

○説明者

- ・公園には防災という側面もあるため、人の利用がないからといって全く整備しないということとはできない。また、トイレを作ってほしい等の声もあるが、全ての公園について整備することは難しい。

●委員

- ・避難所という意味合いから一概に言えないが、本来の公園としての在り方を大切していただきたい。

●委員

- ・現在ある公園は本当に地区からの要望により作られたものなのか。市の施策によりやむを得なく作ったということはないのか。田んぼの区画整理から農村公園を作ったのは良いが、住民による草刈り等、維持がたいへんだと聞く。

○説明者

- ・たしかに区画整理事業により整備した公園もあると思う。その中でも、どのような遊具が必要か地元の声を聞いたはずである。

●委員

- ・近年、公園の利用者層は子どもより高齢者が多いのではないか。利用者も変わってきているように、公園の存在意義も考えながら作っていかなくてはならないと思う。

○説明者

- ・公園施設のニーズは時代により変わってくるが、利用者層や人数が変わっても近隣の公園は必要であると考えため、今後も長寿命化の方針で進めていきたい。遊具については、公園施設長寿命化修繕計画や予防保全計画により、安全性を確保していく。

●委員

- ・安全面は十分配慮していただきたい。

●委員

- ・パーク&ライドの実施について、シャトルバスよりも周遊バスである「ぐるりん」を活用できないだろうか。駐車場から恐竜博物館のピストンでは、市内の他の観光地を回ることにはできない。ぐるりとパーク&ライドのコラボレーションがあると、勝山を周遊するかなりよい手段になると思う。今後、花月楼を整備するなら立ち寄る手段もできて良いのではないか。

○説明者

- ・現在パーク&ライドは繁忙期に年間2週間程度の実施をしている。実施する日は道路が大渋滞になっており、公共バスもほぼ満車の状態である。北陸新幹線の影響からか、えちぜん鉄道の利用者も3割程度増えていると聞く。現行の公共交通機関にパーク&ライドの実施をプラスすることで、渋滞緩和にも効果的だと考える。

●委員

- ・観光地のポイントを回るような循環バスがあると良い。

○説明者

- ・繁忙期になると道路が渋滞しており、時間通りにバスが運行できないことが予想される。期間を限定すれば有効かもしれない。

○説明者

- ・道の駅構想の中では、道の駅を拠点とした市内観光地を周遊する着地型観光の構想もあり、今後具体化していきたいと考えている。

●委員

- ・繁忙期の渋滞やパーク&ライドの混雑等について、県は理解しているのか。

○説明者

- ・勝山市としては、長尾山にさらに駐車場を整備することが一番効果的だと考えているが、県としては侵入ルートの構築やパーク&ライド等の様々な手法から緩和策を講じることが有効的だと考えているようだ。どちらにしても、中部縦貫道路の永平寺～大野間の開通や勝山インター線など交通の流れがどのように変化するのを見こしながら渋滞緩和対策についても考えていきたい。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

4 1 4. 河川の整備 について

●委員

- ・項目の評価について意義はないか。

●委員

- ・異議なし。

#### 4 1 5. 中心市街地の整備 について

●委員

- ・項目の評価について意義はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 4 3. 環境や景観に配慮したまちの実現

#### 4 3 4. 景観形成の推進 について

●委員

- ・景観を阻害する空き家対策の検討について、解体事業の補助基準はどうなっているか。

○説明者

- ・老朽危険空き家解体事業については、1件上限78万円の補助事業であり、条件として住宅であること、解体後10年間無償で提供していただき広場等として活用できること、腐食や破損の程度に点数をつけ100点以上あること等、ある程度の基準を満たす必要がある。これまで補助基準となった物件がないのが現状である。

●委員

- ・基準外には全く補助をしないのではなく、例えば50点なら補助額を30万円にする等、枠を広げた補助事業のあり方を検討してはどうか。危険家屋を放っておくのは危険であり、早めに手を打つのも考え方の一つだと思う。

○説明者

- ・行政としては、現在は空き家対策として空き家バンクの登録に力を入れるなど、解体する前に有効活用していくという方針である。

●委員

- ・空き家バンクについて、区長から不在家屋に関する情報提供を早めに求めるなどしながら、不動産業者や民間と歩み寄って進めていただきたい。

●委員

- ・空き家の対策解体補助について、10年間の無償提供とはどの程度を求めているのか。駐車スペースで使用しても大丈夫なのか。

○説明者

- ・有事に活用させていただくという意味で、特定の方が常に駐車をしなければ問題ないと思う。みなさんが納得して使っていただけるような活用をしていただければよい。

○説明者

- ・土地は基本的には非課税であり公共用地という扱いになるので、地区や地域で使い方や管理方法など話し合いが必要となる。

●委員

- ・項目の評価について意義はないか。



- 委員
- ・異議なし。

#### 4.4. 快適で雪に強い定住環境の実現

##### 4.4.1. 質の高い住環境の整備 について

○説明者

- ・項目評価について訂正したい。  
※「2. 木造市営住宅の集約」について「達成」を「未達成」に訂正

●委員

- ・木造市営住宅の集約について、入居者がいなくなった時点で集約・解体するのか。

○説明者

- ・そうである。ただし長年居住されている方や高齢の方も多く、集約が進まない現状もある。

●委員

- ・例えば高齢の入居者が亡くなることで、集約個数が増えるということならば目標値を出さなくても良いのではないか。

●委員

- ・木造市営住宅は保安上の問題もあると思う。鉄筋の住宅である旭住宅には空き部屋もかなりあるようなので、早めに移っていただくことはできないのだろうか。

○説明者

- ・ご指摘のとおり旭住宅は空いている。ただし、高層階ばかりが空いている。木造住宅は1階2階が多く、経費が安い。そのような面も住居を移らない要因になっているようだ。施策指標についても市でストック計画を取り決めていることから、目標値にあげているという経緯がある。総合計画の見直しに合わせて数値目標についても検討したい。

●委員

- ・解体するときに新しい瓦をとっておいて市民の方に配布する等の工夫があるとよいと思う。ほかの住宅のメンテナンス用の瓦にするのもよいのではないか。

○説明者

- ・検討させていただく。

●委員

- ・項目の評価について意義はないか。

●委員

- ・異議なし。

##### 4.4.2. 除雪体制の確立 について

●委員

- ・勝山の除雪は、他市町と比べてもレベルが高くて良いと思う。

●委員

- ・市道の除雪に対するクレームはあるのか。

○説明者

- ・一度に多くの降雪があった場合には苦情が多い。またオペレーターが変わった場合に、雪の押し方が従来と違う等の苦情がある。

●委員

- ・項目の評価について意義はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 第5章 豊かな人間性とたくましさをもったひとを育むまちづくり

### 5.5. 生き活きと輝くスポーツの振興

#### 5.5.2. 体育施設の整備・充実 について

●委員

- ・新体育館の建設について、今後、新体育館で大きな催しはあるか。

○説明者

- ・全国中学生体育大会のバスケットボール競技が行われる。また、これまで市民会館で開催されていた「DINO-A-LIVE」が8月にジオアリーナで開催される。

●委員

- ・ジオアリーナのランニングコースについては利用者サービスを向上させることで、より魅力的な体育館にできると思う。例えばアプリを活用するなど、活用方法についてアイデアを公募してはどうか。

○説明者

- ・スポーツ局にお伝えしたいと思う。

●委員

- ・項目の評価について意義はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 【Cグループ】 教育・福祉分野

### 第1章 すべての市民の力を合わせた広く開かれたまちづくり

#### 1.3. 多様な交流活動の推進

##### 1.3.2. 国際交流の推進 について

###### ●委員

- ・中国浙江省麗水市との交流について、例えば福井県立大学では現在も中国との学術的な交流を続けている。勝山市が交流できない具体的な理由は何なのか。

###### ○説明者

- ・市の予算でバドミントンジュニアクラブの強化を図っていくならば、中国との交流以外にも効果的な対策があるのではないかと考えている。バドミントン協会とともに、今後の方向性をよく考えたい。

###### ●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

###### ●委員

- ・異議なし。

### 第5章 豊かな人間性とたくましさをもったひとを育むまちづくり

#### 5.1. 望ましい教育の実現

##### 5.1.1. 教育環境の整備・充実 について

###### ●委員

- ・小学校再編の在り方の検討について、地域の方々といくら話し合っても「地域の方は要望していない」が「行政としては再編したい」ということで、なかなか溝は埋まらず、結局平行線のままという気がする。ある程度、市としての具体的な目標設定が必要かもしれない。折り合うための方策を考慮しなければならない。

###### ○説明者

- ・小中学校の再編について、当初は同時に実施する方針を打ち出していたが、平成25年度の最終方針で小学校再編については保護者・地区住民の意思を尊重して対応することとし、まず中学校から再編を検討していくこととした。ただし、地元からの要望があれば、先行して小学校再編を一部進めることも可能とした。

大野市は勝山市と比較すると小学校の再編が進んでいるが、これは主に1つの地区にある2つの小学校を統合するケースである。中学校の再編も進んでいるが、勝山市との大きな違い

は、建物の大規模改修の必要がほとんどなく、生徒の移動対応がメインという所である。  
なお、今後、中学校の再編の合意形成に向けて平成30年に検討委員会を立ち上げることとしており、平成31年には基本方針を立てる。それにあわせて、小学校の再編もしっかり検討していきたい。

●委員

- ・小学校の再編とはそもそも何を意味していたのか。目標設定もハードルが高すぎたのではないかな。

○説明者

- ・小中学校の再編に向けた市民との合意形成を目的としていた。再編を避けて通ることはできないと考えている。

●委員

- ・再編していくことは仕方ない部分もあると思う。最初にメリット・デメリットをしっかりと市民に投げかけ、今年はここまで進めるという段階設定をして進めた方が良いと思う。

●委員

- ・大野市では保護者の要望を聞いてもらう機会もなかったと聞いている。

○説明者

- ・勝山市と大野市では少し状況が違った。やはり中学校が再編されれば、小学校も再編することとなる。

●委員

- ・問題点等を保護者に十分周知すべきだと思う。進め方が非常に大切である。

○説明者

- ・委員からいただいたご意見を参考にしながら、今後進めていきたい。なお、小中学の再編により、建物自体がなくなるということではない。学校機能がなくなった場合に、児童センターや公民館、避難施設等の形で活用していくことも同時に検討していかなければならない。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

5 1 2. 心豊かでたくましい児童・生徒を育てる学校教育の充実 について

●委員

- ・教育成果が向上する学習環境の充実について、いじめの問題における取組みを少し具体的に説明してほしい。

○説明者

- ・まずは未然防止策として、教員同士がきちんと情報共有するための会議を開催している。平成28年度では4月～7月の期間において、すでに市内12校で300回以上行っている。その中で、把握した事案について早期に対応しているケースも実際にある。いじめ防止基本方針として、いじめを発見した場合は学校全体で協議し、その日のうちに事実の確認と対応

策を決定することとしている。なお、平成27年度については、問題はすべて解消している。  
(解決ではない)

●委員

- ・スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーはそういった問題のプロフェッショナルであり、今後、その効果も具体的に記載するようしてほしい。

○説明者

- ・今後はそのように対応する。

●上山委員

- ・施策指標「授業の分かりやすさ指標」について、「学校生活が楽しいと感じているか」を指標としてもよいのではないか。子ども達の判断もその方が早いと思うし、学校のあり方としてもその評価結果が良いのならば、うまくいっていると考えてよいのだと思う。

○説明者

- ・総合計画の改定にあわせて検討したい。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 5 1 3. 「生きる力」を育む市民活動の展開 について

●委員

- ・施策指標 児童・生徒の地域行事への参加指標について、各地区のかつやまっ子応援ネットワークは児童・生徒の地域行事に参加を促す中心的な団体なのだと思う。

ただし、ネットワークには充て職で地区の各種団体の委員が参加することとなっているため、急に参加しても何をしたいのか全く分からない。毎年、年度当初にネットワークの目的や具体的な組織体制等について、説明する機会を持ってほしい。平成26年度に小学生の数値が急に下がっており、逆に中学生は上がっているがどうしてこうなったのか理由はあるのか。

○説明者

- ・年度当初に委員の皆さんに集まっていただく機会があり、そこで必ずかつやまっ子応援ネットワークという組織について詳しく説明することとする。

●委員

- ・中学生の地域行事への参加率が低いようだが、勝山市に対する愛着を醸成するためにも、地域活動への参加を積極的に促してほしい。未来のUターンにつながることだと思う。

○説明者

- ・たくさんの中学生が地域恒例イベントである運動会や文化祭には積極的に参加している。さらに参加率が上がっていくようネットワークと連携を密にして各事業に取り組む。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

- 委員
- ・異議なし。

## 5 2. 歴史遺産を活かしたまちづくりの実現

### 5 2 1. 国史跡白山平泉寺旧境内を中核にすえたまちづくり

- 委員
- ・白山（越前）禅定道の整備、活用について、かなりスケールの大きな話だと思うが、現況の整備状況はどんなものか。

○説明者

- ・白山禅定道（平泉寺～白山：直線距離30km）について、まったく整備されていない箇所は福井県側で1km、石川県側0.7km程度あり、福井県側は平成31年までに調査して整備していくこととなる。これまでは禅定道の一部の箇所が白山国立公園に入っていなかったが、その部分も白山国立公園に認定された。これにより、国立公園の登山道整備計画に含まれることとなり、県の事業として今後少しずつだが整備は進んでいく予定である。勝山市はその箇所の地権者と禅定道の利用について調整が必要となる。

- 委員
- ・項目の評価について異議はないか。
- 委員
- ・異議なし。

### 5 2 2. 歴史遺産の保護・活用の推進 について

- 委員
- ・項目の評価について異議はないか。
- 委員
- ・異議なし。

## 5 3. 生き生きと学ぶ生涯学習の推進

### 5 3 1. 学習機会と施設の充実 について

- 委員
- ・施策指標 公民館での学級・講座への参加者数について、各公民館同士での情報共有や公民館から地域の各種団体への情報提供等の連携はきちんと図られているのか。また、そういった中からサークル活動が始まった事例はあるのか。

○説明者

- ・各公民館同士の情報共有について、職員レベルでは定期的に会議を開催して行なっている。

また、学級内容については各公民館運営審議会に諮っており、区民からの要望にも極力応えるようにしているが、情報の提供を徹底したい。

サークル活動については、昨年1団体が新たにスタートしたと聞いている。ただし、なかなかそこまでの発展は難しく、今後も工夫しながら学級・講座を実施したい。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 5 3 2. リーダーの養成 について

●委員

- ・リーダー養成講座の開催について、参加者が集まらなかった理由は何なのか。リーダーの指導力をアップさせる講座とは具体的にはどういったことか。

○説明者

- ・公民館学級の指導者や地域の各種団体の代表の方等に向けて、リーダーとしてのスキルアップを図る講座を実施しようと考えていた。しかし、適した講師を見つけることができず実施することができなかった。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 5 3 3. 自然体験学習・ジオパーク学習の推進 について

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 5 3 4. 図書館機能の充実 について

●委員

- ・公民館との効果的な連携について図書館と公民館が連携した図書の貸出体制を整えたことはとてもよかったと思う。自分自身も利用している。参考に聞くが、勝山市では図書館の民間委託を考えたことはあるのか。

●委員

- ・確かにカフェスペースがあると、若者も行きやすくなるのかもしれない。

○説明者

- ・当分の間は現行のまま運営したい。なお、各公民館では図書の展示方法についても図書館にアドバイスをもらいながら工夫して取り組んでいる。

- 委員
  - ・年間の図書の貸出数も記載してほしい。
- 委員
  - ・各学校では読書タイムがあるが、その機会に図書館の本を利用してもらうのもよいと思う。
- 委員
  - ・項目の評価について異議はないか。
- 委員
  - ・異議なし。

#### 5 4 . 豊かな心と感性を育む文化芸術の振興

##### 5 4 1 . 伝統文化の保存継承 について

- 委員
  - ・項目の評価について異議はないか。
- 委員
  - ・異議なし。

##### 5 4 2 . 文化芸術活動の充実 について

- 委員
  - ・施策指標 市民総合文化祭の参加団体数について、目標が未達成なのはやむを得ない気がする。ただ、地域に隠れている同好会のような団体はたくさんあると思う。そういった団体を掘り起こす取組みも行ってほしい。文化祭に参加する要件が厳しいのであれば緩和し、若い方が軽い気持ちで参加できるような雰囲気を作れば、参加団体は増えていくのではないか。例えば大学生のバンドに出演してもらったり、若い方に実行委員会に加わっていただくような取組みもおもしろい。
- 委員
  - ・文化祭の日程は毎年固定なのか。
- 説明者
  - ・大変参考になる。いただいたご意見を踏まえ、参加者の増加に取り組んでいきたい。なお、文化祭の日程は、参加者の方々の準備のスケジュールもあり、固定している。
- 委員
  - ・文化祭の来客数は把握しているのか。
- 説明者
  - ・来客数の把握はなかなか難しい。団体数も減っており、感覚的にだが経ていると思う。
- 委員
  - ・見に行ったことがあるが本当に少ない。イメージ的にも硬い感じがあった。



●委員

- ・芸術劇場や文化講演会はゲストも素晴らしく、会場はいつも超満員であり、今後も継続してほしい。

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 5.5. 活き活きと輝くスポーツの振興

### 5.5.1. 競技スポーツと生涯スポーツの推進 について

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 5.5.2. 体育施設の整備・充実 について

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 5.5.3. 平成30年国民体育大会の開催 について

●委員

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。